

# リモートアクセス対応KN2116の導入で即時対応可能な保守環境を構築

**ICTV. 入間ケーブルテレビ**

[会社名] 入間ケーブルテレビ株式会社

[公式ページ URL] <http://www.ictv.ne.jp/>



入間ケーブルテレビ株式会社(以下、入間ケーブルテレビ)は、埼玉県入間市の情報発信基地を目指して1990年に開局したケーブルテレビ局だ。入間市全域を中心に、現在では対象エリアを東京都西多摩郡瑞穂町まで拡大。ケーブルテレビ、インターネット、IP電話の各サービスを提供し、地域に密着した頼れる企業として地域住民の方々に親しまれている。

2008年11月、入間ケーブルテレビではNTT固定電話番号の利用が可能なケーブルプラス電話サービスの提供を開始。これに伴い、固定電話並みの通話品質と安定性の確保と同時に、不測の事態にも即座に対応できる環境の整備が求められるようになった。

## 課題

- ◆ 迅速な対応でサーバーのダウンタイムを最小限に抑えたい
- ◆ リモートアクセスでBIOSレベルの操作を行いたい
- ◆ 時間や場所の制約を受けることなく緊急事態に対応したい

## 購入製品

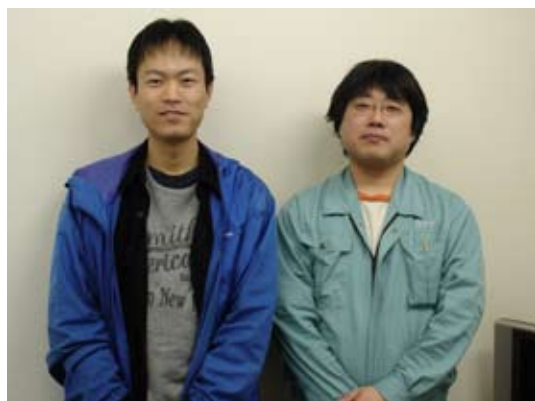
- **KN2116**  
(16ポートKVMオーバーザネット) ...2台  
[関連モジュール]
- **KA9120**  
(PS/2用モジュール) ...17台
- **KA9170**  
(USB用モジュール) ...6台
- **KA9140**  
(シリアルモジュール) ...5台

## 導入の効果

- ◆ 緊急事態に備え万全の態勢が整えられた
- ◆ 機器の動作音に悩まされることなく快適に作業できるようになった
- ◆ 高いセキュリティを維持しながら保守作業に十分なリモートアクセスの環境を構築することができた

## 導入前の課題

ケーブルプラス電話サービスの運用に伴い、緊急事態に即時対応できる態勢づくりが必要



担当:(写真左から)入間ケーブルテレビ株式会社  
管理部 通信課 課長 長澤和久氏  
管理部 通信課 土井知宏氏

入間ケーブルテレビではこれまで、SunSolaris、Windows、FreeBSD等のサーバーを複数のアナログKVMスイッチで管理していた。これらのサーバーをメンテナンスする際には、サーバールームで作業したり、Telnetによるリモートアクセスで対応したりしていたが、上記のケーブルプラス電話サービスの運用開始に伴い、不測の事態にも迅速に対応できる保守環境の整備が必要になった。

Telnetによるリモートアクセスでも大半のケースに対処できるが、BIOSレベルの操作を行うには限界があり、現在の構成では現地での作業を余儀なくされるため、どうしても作業着手までにサーバーのダウンタイムが発生してしまう。

また、緊急事態が発生した際には画面をキャプチャして原因を分析し、その結果をもとに社外の保守担当者とリモートアクセスで連携しながら、迅速かつ適切に対処したいという要件も持ち上がった。

これ以外にもCisco Catalyst等の機器を運用していたが、上記のサーバーとは個別に管理していたため、作業の際に不便さを感じることもあったという。

## 購入のポイント

サーバー、シリアルデバイスの一元管理・リモートアクセスが可能な KN2116 を採用

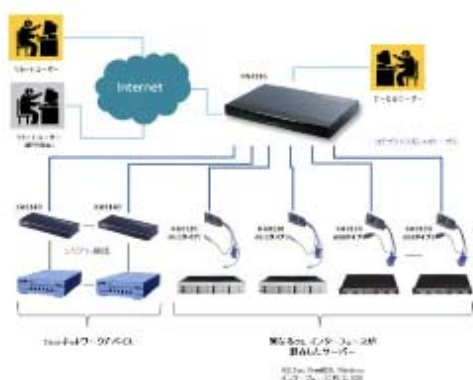


KN2116  
16ポートKVMオーバーザネット

入間ケーブルテレビ管理部通信課の土井氏は、以前、あるケーブルテレビ局のシステムインテグレーターを担当していた経験から、これらの要件を満たすためにリモートアクセスに対応したデジタルKVMスイッチの導入が適当であると考え、現在市場に出回っているKVMスイッチについて調査を開始した。「今回、スイッチとの接続にカテゴリ5LANケーブルを使用するタイプで、シリアルデバイスが接続できるKVMスイッチを探していましたが、これだけの要件を満たすスペックの製品は高価だと思っていましたので、ATENのKN2116を知ったときは、まずそのコストパフォーマンスの高さに驚きました。」土井氏はKN2116の印象についてこのように語った。「KN2116は手ごろな価格でありながら、リモートアクセス対応、シリアルデバイス対応といった必要な条件がすべて揃っていました。さらに、決め手になったのは、Cisco製品との接続実績があるところ。これによってデバイスの相性問題に関する心配もなくなりましたので、購入を決めました。」土井氏はKN2116選定時の様子をこのように振り返った。

## 導入の効果

緊急時に備え万全の態勢を整えると同時に、高セキュリティで快適な作業環境の構築を実現



製品導入後のシステム構成(クリックで拡大)

KN2116の導入によって、「緊急事態に即時対応できる態勢を整える」といった当初の目的が達成されたのはもちろんのこと、これ以外にも作業効率やセキュリティの点において様々なメリットがもたらされた。

まず、作業の効率に関しては、リモートアクセス機能を利用して遠隔地からインストールを行うことによって、作業時に発生していた騒音の問題が解消した。以前はインストールの度にサーバーを自分の席の近くに移動させて作業を行っていたが、KN2116の導入後は自分の席からリモートアクセスして作業できるため、作業の担当者だけでなく、周りにもサーバーの動作音に悩まされることがなくなり、落ち着いた環境で快適に作業ができるようになった。

また、セキュリティの点においては、社外の保守担当者に作業用の専用アカウントを発行、そのアカウントのアクセス権限をメンテナンスに必要なコンピューターだけに限定することにより、高いセキュリティを維持しながら保守作業に十分な環境を提供することができた。

## 感想・今後の展開

操作性・機能性の高さに満足。ATEN 製品を更に活用したシステム拡張にも意欲的



ラックにマウントされたKN2116(2台)

KN2116を実際を使用して見て、予想以上に作業効率が向上したこと、また、製品の操作性が高いことに驚いたという。「新しい機器構成で運用を開始してから幸いなことに緊急対応が必要な事態になったことはありませんが、業務効率は大幅にアップしました。操作性については、初めて製品に触った人でも直感的な操作で簡単に使えるのがいいですね。製品セットアップのために日本語マニュアルを事前に準備していたのですが、結局一度も目を通すことなくセットアップすることができました。」

最後に、製品の選定から導入までを総括し、KN2116について以下のような感想をいただいた。「価格が安くても必要な機能が揃っていないのであれば他の製品を選ばざるを得ないと思っていましたが、KN2116の導入で本来の目的が達成できただけでなく、予想を上回る効果を得ることもできたので、今ではこの製品に大変満足しています。」

現在では人間ケーブルテレビの担当者だけでなく、社外の保守担当者もKN2116の操作性や機能性を高く評価しているとのこと。

将来的にはRADIUSサーバーによるKN2116の外部認証や、Power Over the NET™シリーズ製品を使用したデバイスのリモート電源管理も行いたいと、ATEN製品を更に活用したシステム拡張にも意欲を示していた。

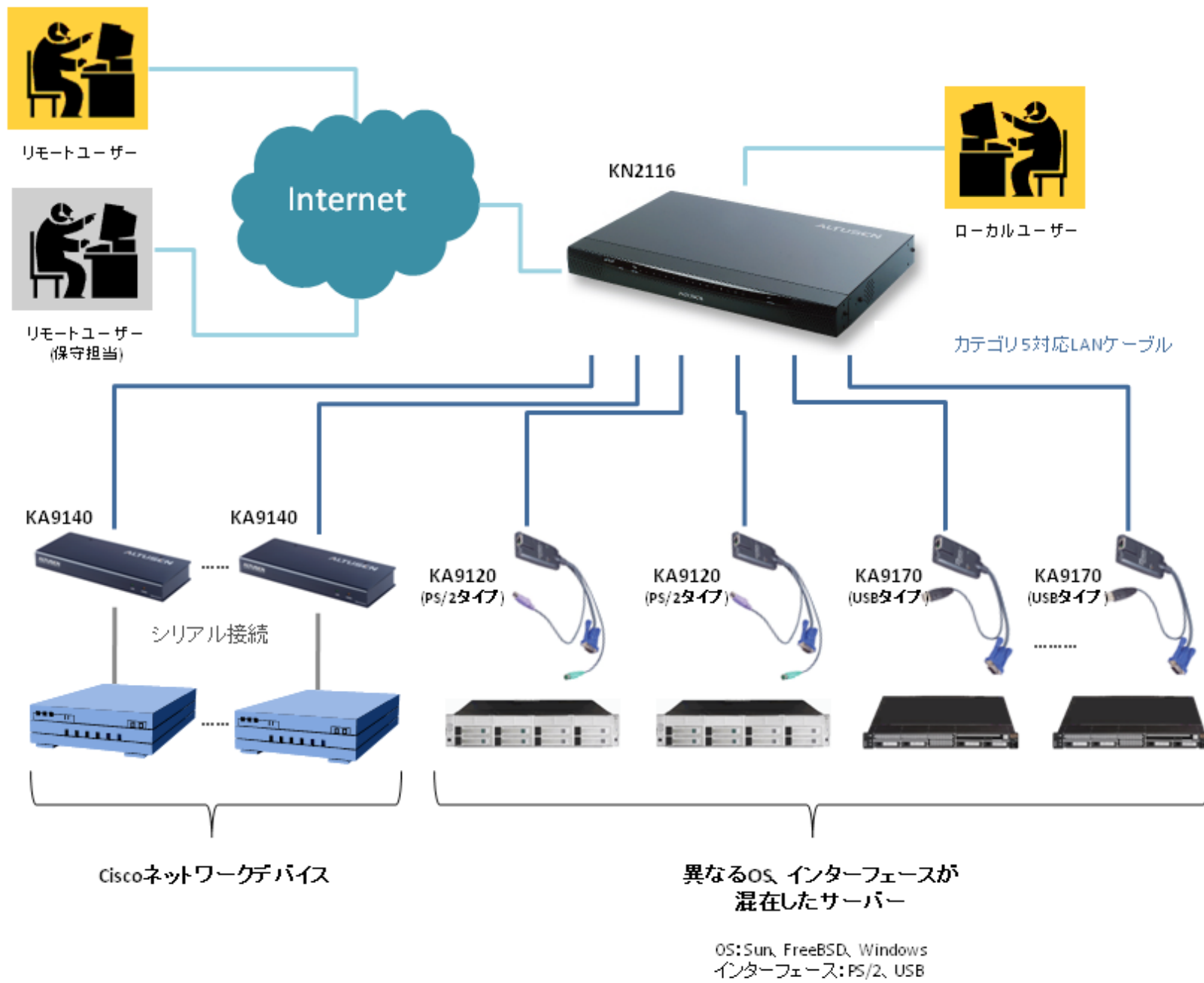


シリアルデバイスとの接続に使用しているKA9140(左)と、PS/2インターフェースのコンピューターとの接続に使用しているKA9120(右)

## 会社概要

|      |  |
|------|--|
| 会社名  | 人間ケーブルテレビ株式会社  |
| 場所   | 埼玉県入間市高倉5-17-27  |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>有線テレビジョン放送法による有線テレビジョン放送事業</li> <li>有線テレビジョン放送施設を利用する音楽放送およびエフエム放送事業</li> <li>有線放送を利用した電気通信事業法による第一種電気通信事業</li> </ul> |

構成図



本文に戻る